

柿 生 文 化

平成22年10月18日
川崎市立柿生中学校
柿生郷土史料館 情報・研究誌
第28号

柿生に残る胡瓜(きゅうり)の伝説

— 不思議な伝承を探る —

柿生のある地域では、昔からキュウリを作りません。その理由は、昔、疫病(伝染病)が流行したため、村人は天王様(てんのうさま)もともとインドの神様で「牛頭天王:ごずてんのう」という疫病の神様で「祇園さま」ともいわれる。また古事記でてる「スサノノミコト」と合体して信仰されている)に「今後キュウリを作りませんので村人をお守り下さい」という願を懸けたということ。また一方ではキュウリを輪切りにしたときの模様が徳川家の家紋の葵(あおい)の御紋によく似ていることから「大変恐れ多い」ということで作らなくなったとも伝えられています。



(疫病除けの守護神「牛頭天王」)

確かに柿生は旗本領が多く徳川家と関係が深いのでそのようなことも考えられるかもしれませんが。しかし神様への願掛けがなぜキュウリだったのでしょうか。そこで、このような伝説が他の地域にも存在するのか調べてみますとキュウリに関するタブーが全国各地域に点在していることが分かりました。

一例をあげますと◎7月15日前に食べると赤痢になる(秋田)◎ヤマトタケルがキュウリのツルにからまって転び胡麻のワラで眼を怪我したから作らない(宮城・福島)◎初生りを指すと指が腐る(新潟)◎お汁に入れると貧乏神がよってくる(青森)◎食べると不幸がある(千葉)◎天王様はキュウリが大好物で畑で食べているときツルで眼を傷めて失明したからキュウリは作れない(鳥取)切り口が氏神さまの紋所に似ているので恐れ多い(福島)◎祇園様(牛頭天王=インド神、日本ではスサノノ尊)の日に食べると腹痛におそわれる(広島)◎キュウリの初生りを川にながすとカッパに引き込まれる(奈良・石川・富山・和歌山・千葉)◎キュウリを食べて泳ぎにいくとカッパに引かれる(富山・石川・岐阜・新潟・広島・愛媛・福島・秋田・群馬)◎初生りのキュウリは蛇が入っているから川に流さなければならぬ(神奈川) など多くの伝承が見つかりました。

伝承には共通することがいくつかあります。それは、①食べることにより病気になるか死を招く②輪切りにした切り口が偉い人の紋所に似ている③眼を傷める(ワラで眼を怪我した)④カッパとの関わり等です。共通項は、キュウリを食べることによるリスクについてです。キュウリは瓜の一種ですが、昔、地方ではウリを食べて赤痢になったということをよく聞きます。伝染病に対するリスクを恐れての禁忌(きんぎ)が考えられます。一方、川崎市内にはキュウリ以外にトウモロコシに対するタブーも高津区野川でみられ、他県ではカボチャの例があります。キュウリ・トウモロコシ・カボチャは、もともとは外来種ですがこの辺についても何か関係があるのかもしれませんが。いずれにしてもキュウリを作らない、食べない何かがあったことにはまちがいありません。それは、迷信に近いものなのか、あるいは経験に基づく根拠があったのか、神様や恐れ多いものに対する畏敬の気持ちからなのかこれからの研究に待たれるところです。大変興味のある課題です。

(参考資料:「郷土研究・1916年版」、「講座日本の民俗宗教」)

柿生郷土史料館オープンせまる 11月20日(土) 落成式典終了後

- ◎記念展示テーマ「柿生・岡上 歴史の鼓動」縄文～古墳
- ◎社会科資料ゾーン「実物で語る祖先の歩み」

待望の新校舎内特別活動室を活用した「柿生郷土史料館」のオープンがいよいよ11月20日(土)にせまってきました。



(柿生郷土史料館)

すでに、予定の展示ケースは設置され、さらに市民ミュージアムよりご協力をいただきました郷土史に関する史料も多数搬入されました。

今後、未長く史料館を存続させるためにも、開設当初にしっかりした設備と郷土史料が必要となってきます。その意味からも多くの方々よりご支援をたまわり準備も順調に進めてまいりたいと思います。

主な展示史料 (予定)

記念展示ゾーン テーマ「柿生・岡上 歴史の鼓動」

- ◎柿生・岡上の縄文時代の出土土器・石器
- ◎早野 上の原遺跡付近より出土の弥生土器
- ◎岡上 丸山遺跡出土の古墳時代の蒸し器
- ◎縄文土器・弥生土器・土師器(甃き)・須恵器(すゑき) 各時代別展示
- ◎「手にとって肌で感じる古代のぬくもり」コーナー
※土器を直接、自分の手で触ってみることができます。

社会科資料ゾーン テーマ「実物で語る祖先の歩み」

- 古代コーナー —原生人類の始まりから四大文明—
 - ◎クロマニヨン人—旧石器の謎を探る—
 - ◎中国文明 青銅器の時代
 - ◎エジプト文明の「パピルス」って何? どのようにして作るの?
- 近世コーナー —人々の統制と生活—
 - ◎「検地帳」「五人組帳」「宗門人別改帳」「農業全書」など
 - ◎文化・文政期の各種読み物「南総里見八犬伝」など、他多数準備
- 幕末～明治コーナー —幕府滅亡への歩みと近代国家づくり—
 - ◎「海国兵談」・「五ヶ国条約」など
 - ◎「政体」「地券」「太政官日誌」「学問のスズメ」「西洋事情」
- 新聞より探る日本の歴史コーナー —新聞が語る真実—
 - ◎戦前・戦後の歴史を当時の新聞より見つめる

企画展示ゾーン 「鶴見川流域文化と鉄」—3つの実験—

- ◎鶴見川の砂鉄採取→古代タタラ製鉄実験→鉄器の製造 全実験公開!

— 柿生・岡上地名考 VI — 五力田

古い伝説の里「五力田」(ごりきだ)



(五力田の字名)

五力田の地名は、地元の住民の話によれば、鎌倉武士の子孫で五人力の大力の男が水田を開いたことに由来する説と、五人ほどの農民が力を合わせて田畑を開発したからという説がありますが、今のところはっきりとした事はあまりよく分かってはいません。ただ、「新編武蔵風土記稿」を見ますと「伍力田」と記載されていますので「伍」は数を表す言葉だけではなく「力をあわせる」「力を組む」という意味でもあります。

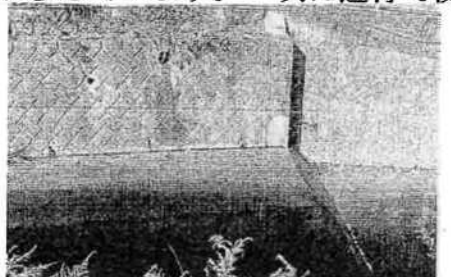
したがって「合力田(ごりきだ)」＝「村人の力を合わせて開拓した土地」から付けられた地名の可能性もあります。

五力田の作物収穫は「武蔵田園簿」(江戸時代、正保年間に武蔵野国幕府領の支配状況を著したもの)を見ますと旗本の朝倉織部が知行(主君から分け与えられた土地)し、田は27石1斗4升、畑12石7斗2升、計39石8斗6升(1石=10斗=100升=1000合)の作高があったと記されていますから水田耕作が中心であったようです。

「新編武蔵風土記稿」によると『山林高低あり…田畑相半せり、用水は多く天水をたたえ、或いは所によりて谷々の清水を用ゆ』と書かれていますので起伏が多く谷戸の多い土地であり農業用の水は雨水か湧き水を利用していたようです。それでは、古くからある地名を見てみましょう。上の地図を見ますと「谷戸」のついた地名が多く地形的には複雑な地形であったようです。

字(あざ)名の大台(おほび)や小台(こび)の「台」は丘陵地帯の中にある平坦な地域のことをさしています。この字名は「風土記稿」には登場しませんが、片平の項目には「寺台」「京法台」が見られます。

小字(こあざ)の赤せきは片平にも同名の小字(こあざ)があります。麻生川に接したところの崖が崩れ赤い土の見えるところからきたか、麻生川に入り込む小河川や地下水の流れこむ所に赤・黄色系の鉄渋が溜まっている地域を指しているのではないかと考えられます。六所谷(ろくじやう)は、谷戸の入り口付近の小高い所に六所神社(10代崇神天皇の頃、柳田氏が出雲から移してきた神社で、後に五つの神社と自社とあわせて六つの豊を祭った神社・本社は大磯にある)があったところからついた地名。諏訪谷(すわが)は近くの諏訪神社のあった谷戸からきています。次に通称で使われている地名で日向畑(ひなたば)は南西に面して日当たりが良く作物がよく生育するところから来たようです。相の坂(あいのさか)は五力田村と片平村の間にあった坂ということです。又口(またぐち)は諏訪谷と六所谷の分かれ口からついた地名です。入定塚(にゅうじょうづか)は出土した板碑から天文5年(1536年)に亡くなった高僧を祀った塚があったことから考えられます。(参考資料:「川崎地名辞典」「全国神社名鑑」「武蔵田園簿」「新編武蔵風土記稿」)



(赤せき:麻生川の川底に堆積した鉄渋←川の側面近くが黄色)

津久井道の姿を探る — 第24回カルチャーセミナー —



(講演に熱の入る對馬醇一先生)

第24回柿中カルチャーセミナーが10月5日に柿生中学校で對馬醇一先生を講師にお迎えして開催されました。講演は川崎市内の各街道の姿と役割、そして津久井道の昔の姿と変化について、特に登戸宿の賑わいや柿生周辺の養蚕業と津久井道の発展について興味深いお話が印象的でした。

カルチャーセミナー案内

第25回 柿中 **カルチャーセミナー** ご案内

日時 平成22年12月20日(月)
午後6時より

会場 柿生中学校 視聴覚室

テーマ 「**樹形城悲話**」 一稲毛三郎重成の生涯一

講師 小川 信夫 氏
(劇作家)

内容 平安末から鎌倉時代にかけて川崎で活躍した源頼朝の義兄弟「稲毛三郎」の生涯と人物を探ります

郷土史最新情報

— 柿生中学校郷土研究チーム —
鍛冶による**鉄器の製作実験**

昨年、10月より「柿生・岡上 鉄の系譜」というテーマのもと、鶴見川の砂鉄を使った鉄器の製作実験の準備を行なってきました。第1期砂鉄の採取、第2期古代タタラ製鉄実験、第3期鍛冶による鉄器の製作の3段階に分け今回10月31日(日)午前8時半より麻生区東百合ヶ丘の松沢鉄工所で最終段階の鉄器の製作を行なうことになりました。

松沢さんのご好意に感謝します。

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

このような史料はありませんか

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こぎ」「備中鍬」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで